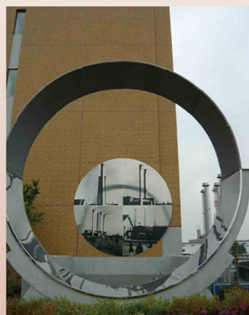
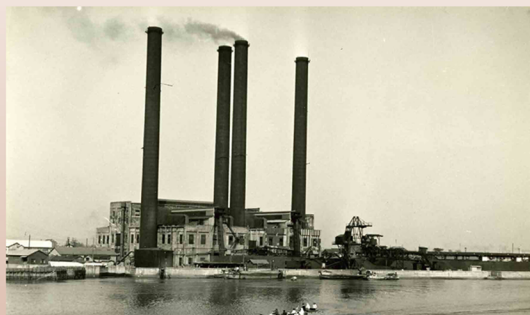


お化^ばけ煙^{えん}突^{とつ}

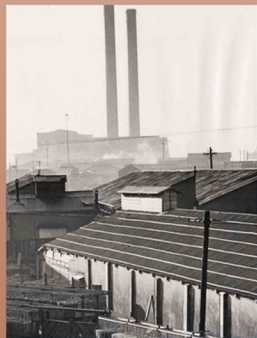
— 今、なお、人を魅了するその姿 —



通 称「お化け煙突」と呼ばれた千住火力発電所の四本煙突は、大正15（1926）年から昭和39（1964）年まで、千住のシンボルでした。この煙突は、見る方向によって、本数が変わって見えることで有名になりました（下写真）。千住火力発電所は、足立や付近の工場へと電気を供給し、東郊の近代工業を支えました。撤去されてもうすぐ50年を迎えますが、今なお、小説や漫画、映画の世界などを通して、多くの人々に親しまれています。解体後の素材の一部を利用したモニュメントが帝京科学大学の千住キャンパス（千住桜木2-2-1）にあります（右上写真）。



▲1本



▲2本



▲3本